

高規格道路 上信自動車道の概要

上信自動車道の整備イメージ



上信自動車道は、群馬県渋川市の関越自動車道・渋川伊香保インターチェンジ付近から鳥居峠付近を經由し、長野県側の上信越自動車道へ至る延長約84kmの道路です。

本路線は、群馬県及び長野県の「広域道路交通計画」において高規格道路に位置づけられており、災害時にも機能する強靱な道路ネットワークを構築するとともに、物流の効率化や観光振興など渋川・吾妻地域の活性化支援に大きく寄与する道路です。

整備効果① 自然災害時の安全安心を確保！

◆災害時にも機能する強靱な道路ネットワークの構築

広域的な救命救助活動、被災地への支援物資輸送や経済活動の継続性を確保するため、防災拠点や物流拠点が集積する防災・物流拠点集積エリア間を連携する強靱な道路ネットワークを構築します。

災害時にも機能する強靱な道路ネットワークのイメージ



上信自動車道整備によるネットワークの多重化



※現道の国道353号や国道144号は、大雨による災害により、度重なる通行止めが発生。上信自動車道の整備により、ネットワークの多重性・代替性が高まります。

整備効果② 観光誘客を後押し！

◆東京から高速で約3時間、草津温泉やハッ場ダム等がより身近に

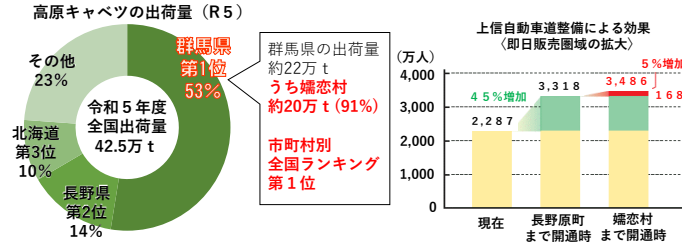
上信自動車道の整備により関越自動車道の渋川伊香保IC～各観光施設へのアクセス時間が大幅に短縮され、観光振興に大きく貢献します。



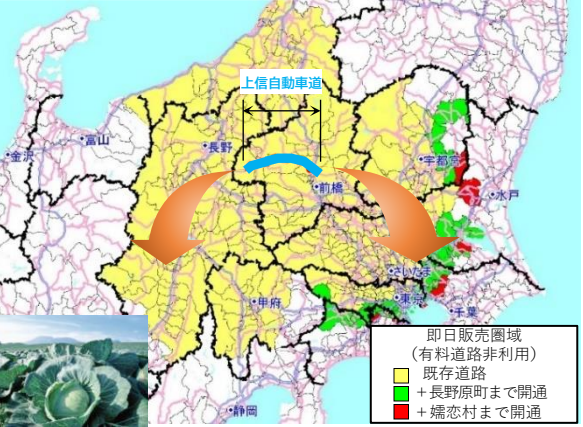
整備効果③ 農業活性化へ！

◆朝採り新鮮高原野菜の品質向上と販路拡大

日本一のキャベツの産地である嬬恋村からの即日販売圏域が拡大する等、吾妻地域の更なる農業の活性化が期待されます。
走行性の向上によりキャベツの品質が向上するとともに車両の大型化等により1回あたりの運搬量が増え、深刻なドライバー不足解消にも寄与します。



キャベツの即日販売圏域



整備効果④ 安心な出産を後押し！

◆1時間以内に周産期医療へ到着できる範囲が拡大

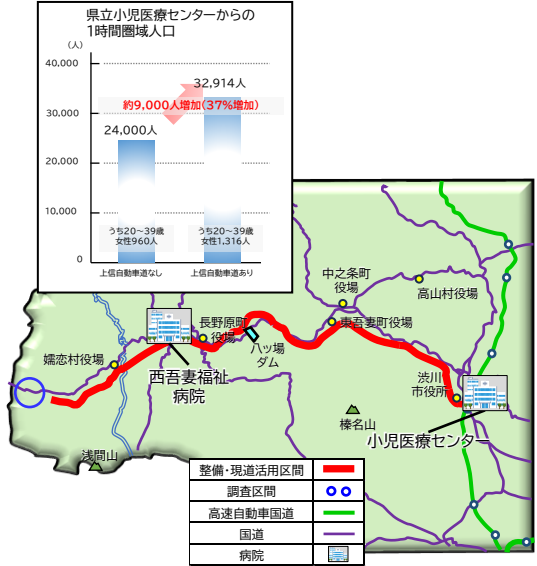
今までの緊急搬送時間を短縮し、周産期医療体制のある県立小児医療センターへ自動車で1時間以内で到着する範囲が拡大し、周産期医療体制の充実が図られます。

●吾妻地域の周産期医療の現状

- 現在、吾妻地域内には周産期母子医療センター等は立地しておらず、2019年1月から西吾妻福祉病院で分娩の取扱いが休止になったことで、遠方の医療機関を受診せざるを得ない状況となっています。
- 渋川市に群馬県の「総合周産期母子医療センター」である「県立小児医療センター」があり、自動車で1時間以内に到着できる地域が拡大します。

周産期医療とは

「周産期」とは、妊娠22週から生後満7日未満までの期間をいい、合併症妊娠や分娩時の新生児仮死など、母体・胎児や新生児の生命に関わる事態が発生する可能性があります。周産期を含めた前後の期間における医療は、突発的な緊急事態に備えて産科・小児科双方からの一貫した総合的な体制が必要であることから、特に「周産期医療」と表現されています。



整備効果⑤ 交通混雑の緩和！

◆渋川市内の混雑の緩和

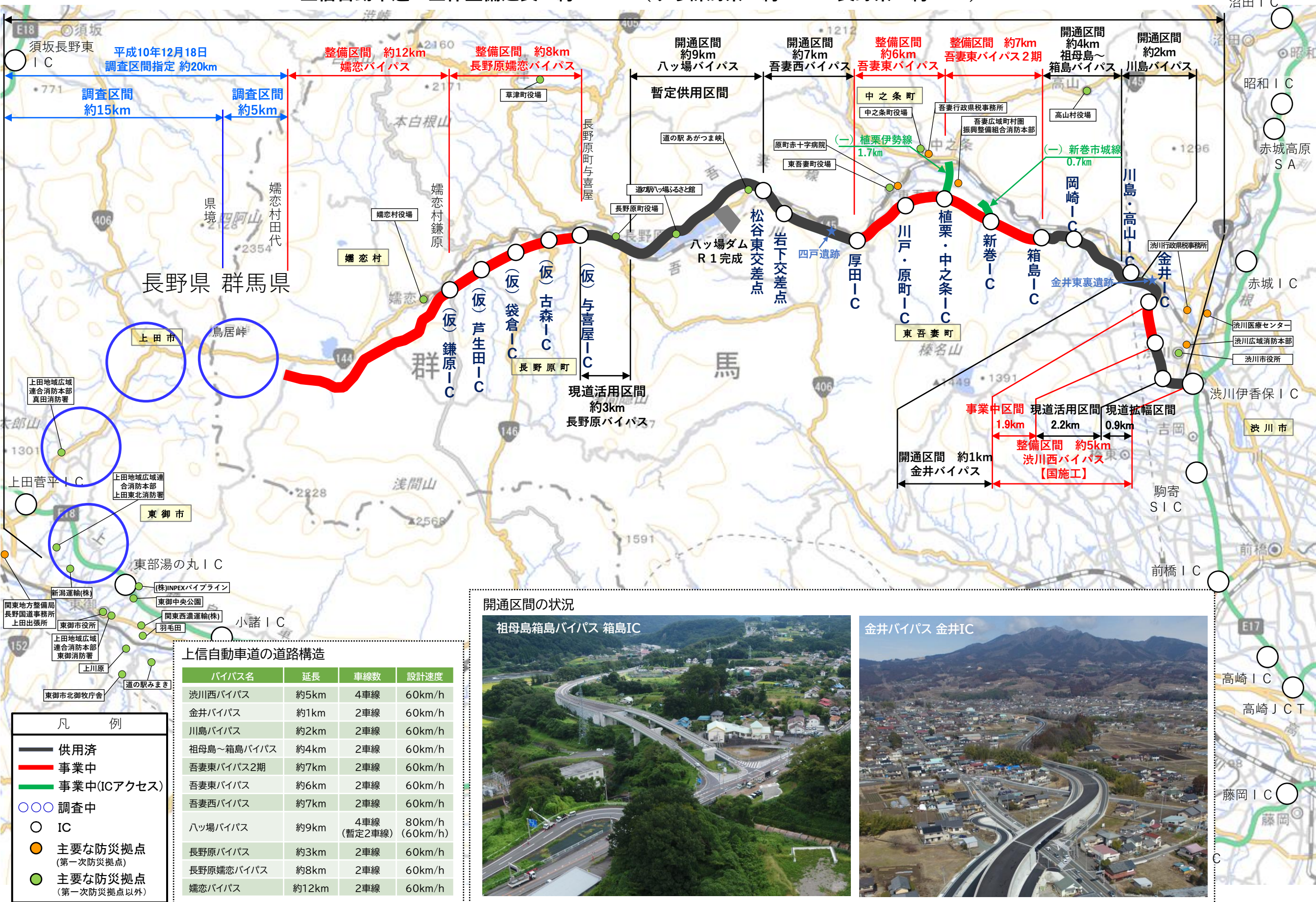
渋川市から東吾妻町及び中之条町に至る国道145号・国道353号・県道渋川東吾妻線の一部区間で、平日の混雑時の旅行速度が15km/h以下となっています。
上信自動車道の整備により、渋川地域と吾妻地域が連携され、交通量の転換が図られるため、渋滞区間の混雑緩和が見込まれます。



交通混雑発生状況（県道 渋川東吾妻線 金井南交差点付近）

上信自動車道 全体整備延長 約84km (うち群馬県 約69km 長野県 約15km)

出典：地理院地図（淡色地図）を加工して作成



群馬県広域道路交通計画とは

■目的

20年先のぐんまの将来を見据えた広域的な道路交通の方向性を定め、今後の計画的な道路整備や維持管理、効率的な道路交通マネジメント等を推進するため、策定するものである。

■計画期間

2022年(令和4年度) から20年間

群馬県広域道路交通計画 2022-2041

20年先の群馬の将来を見据えた広域的な道路交通の方向性

広域道路交通の基本構想
(ビジョン)

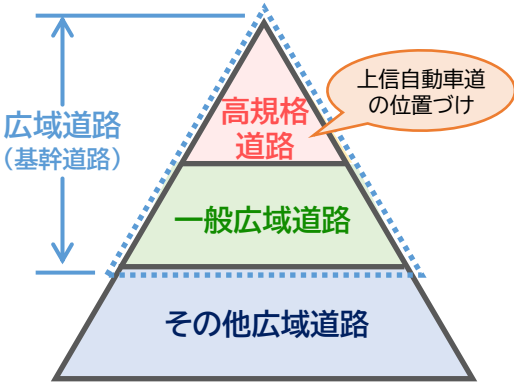
- ・地域の現状と将来像
- ・将来像の実現に向けた課題と課題解決に向けた方向性
- ・広域的な道路交通の基本方針と政策・施策

広域道路交通の基本計画
(計画)

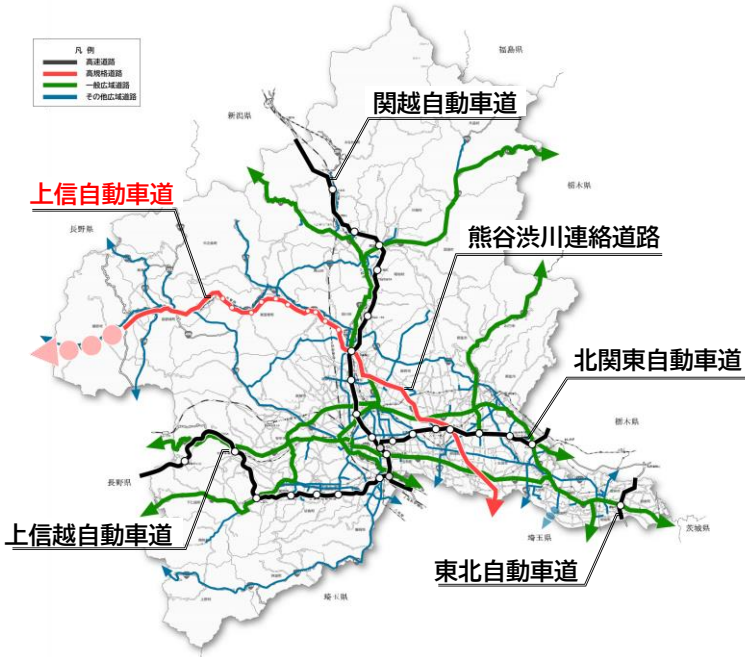
- 広域道路ネットワーク計画
- ・交通、防災拠点計画
- ・ICT交通マネジメント計画

● 広域道路ネットワーク計画

広域道路ネットワークの階層



広域道路ネットワーク計画図



群馬県内の高規格道路

- ①上信自動車道
- ②熊谷渋川連絡道路

重要物流道路とは

重要物流道路とは、平常時・災害時を問わない安定的な輸送を確保するため、物流上重要な道路輸送網として国土交通大臣が指定した路線で、機能強化や重点支援が実施されます。

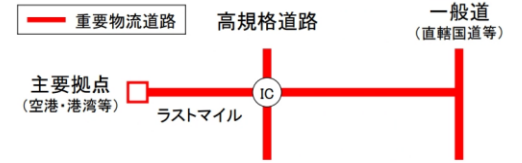
また、重要物流道路の代替・補完路をあわせて指定し、重要物流道路や代替・補完路については、災害時の道路啓開・災害復旧を国が代行することが可能となります。

重要物流道路指定の効果

- ・道路構造の基準を国際海上コンテナ車対応に引上げ
- ・構造上支障のない区間は、国際海上コンテナ車の特車許可不要
- ・地方自治体事業は個別補助制度も活用して支援



ネットワークイメージ



上信自動車道における重要物流道路
(事業区間・供用区間)の指定状況(R6.4.1時点)

- 【事業区間】(国)17号(渋川市石原～同市金井:渋川西バイパス)
- (国)144号(与喜屋IC～鎌原IC:長野原嬭恋バイパス)
- (国)145号(厚田IC～植栗・中之条IC:吾妻東バイパス)
- (国)353号(箱島IC～植栗・中之条IC:吾妻東バイパス2期)
- 【供用区間】(国)17号(渋川市中村～同市石原:渋川西バイパス)

開通済み区間における効果

○吾妻西バイパス(厚田IC～松谷東交差点)開通の効果

■安全・安心の向上

東吾妻町郷原地区では、過去に斜面崩壊による通行規制が発生しました。

吾妻西バイパスの整備により**自然災害時における代替路を確保しました。**



■交通の転換

現道からバイパスへ交通が転換し、**道路の利便性と周辺地域の安全性が向上しました。**

- ②国道145号(現道) : 42%減少!
- ③抜け道利用の町道 : 54%減少!

交通がバイパスに転換

